

6-8		主題	記録の電子化に関する研究	
記録のIT化		副題	～介護記録専用システム導入におけるメリット～	
多職種との情報共有				
研究期間	18ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム博水の郷	
発表者：番本 鷹也(ばんもと たかや)		アドバイザー：田中雅英(たなか まさえ)		
共同研究者：佐藤 由佳(さとう ゆか)・川名 千絵(かわな ちえ)				
電話	03-5491-0340	メール	tomo@hakusuinosato.or.jp	
FAX	03-5491-0343	URL	http://www.oomishima.jp/	

今回発表の事業所やサービスの紹介	特別養護老人ホーム博水の郷は、平成14年4月に世田谷区鎌田に開設しました。東京都の西のはずれ、多摩川を望む場所にあります。 従来型44床とユニット型46床の複合施設です。 都内では珍しい1フロアに従来型とユニット型が併設している施設です。 ショートステイは、最上階にあり専用フロアとなっています。
------------------	--

《研究前の状況と課題》 ① 職員は、日々の記録やその他書類全般に関し、手書きにて記入していた。記入は慣れてしまえば大きく手間取ることはない。しかし、誤字・脱字また個性的な字の書き方も少なくないため読みにくく、記録の記入と把握に時間がかかることが多くあった。さらにケース記録と日誌、クラブ活動記録など重複して記録するものがあるため記録の時間が多くかった。 ② 日々の記録と基本情報とが別に保管されていたことや記録物が一つしかないため、ほかの職員が記入や閲覧をしている時に使用することができず記入待ちの時間があつた。多職種による迅速な情報確認と共有が難しかった。 ③ データ化していないため、開設時からの書類がかさ張り、保管場所が課題となっている。 ④ 記入に時間を奪われ、利用者の支援の時間が不十分だった。	《研究の目標と期待する成果》 ① 介護専用システム(以後システムと表記)を導入することにより、誤字・脱字をなくし、字体も統一することができ、読みやすい記録になる。システム導入以前よりも詳細な「ご利用状況報告書」をご家族に渡すことが可能になる。入力したケース記録がシステム内で日誌などと連結しているために事後入力が無くなる。 ② システム化に伴い情報が一元化され、多職種が閲覧したい時に閲覧できる環境が整う。その結果、情報収集が円滑迅速にでき連携がスムーズになる。 ③ 記録や書類をデータ化する事により書類の保管場所が削減される。 ④ 記入にかかる時間が削減され、利用者支援の時間が増える。また、職員の余暇時間が増えリフレッシュして次の勤務に臨める。
---	---

《具体的な取り組みの内容》

- ① 調査方法 アンケート調査
- ② 調査期間 システム導入前(平成 22 年 10 月 21 日～10 月 30 日) システム導入後(平成 23 年 6 月 21 日～6 月 30 日)
- ③ 調査対象
システムに携わる全職員(55 名)
利用者ご家族(30 名)
- ④ 主な調査内容(導入前)
 - ④ー1 システムに携わる全職員
 - ・他の職員が記入した記録についてどのように思っているか?
 - ・記録の保管について?
 - ・記録のシステム化についてどのように考えているか?
 - ・記録にかかる時間について?
 - ④ー2 ショートステイ利用ご家族
 - ・現在の利用状況報告書についての不満?
- ⑤ 調査内容(導入後)
 - ⑤ー1 システムに携わる全職員
 - ・他の職員が記入した記録について導入前との違い?
 - ・記録の保管について導入前との違い?
 - ・システム化した事で変わった事は?
 - ・記録にかかる時間について?
 - ・システムを導入して良かったか?
 - ⑤ー2 ショートステイ利用ご家族
 - ・システム導入後の利用状況報告書について?(導入前と比べて)

《取り組みの結果と評価》

- ① 字体が統一され誤字・脱字や訂正が減り閲覧しやすくなった。取り組み初期は手慣れない部分もあり記録入力に割く時間が増加したが、パソコン入力が定着したことにより徐々に減少していった。
- ② 記録や基本情報などが一元化されたため、全職員が施設内のパソコンで記録物を同時に閲覧することが可能になった。
- ③ 導入前は、PC を苦手としていた職員が今では、得意になっている。
- ④ すべての記録がデータとして保存されているため、書類保管場所が縮小された。
- ⑤ ご家族へのアンケートの結果、「ご利用状況報告書」がわかりやすくなり評価が上った。
- ⑥ 記録にかかる時間が削減され、利用者支援の時間が増えた。職員の余暇時間が増えリフレッシュして勤務に臨めるようになった。

《まとめ》

システム導入により、記録や書類に割く時間が減った。利用者と積極的に関わる時間を増やすことができた。また職員の余暇時間が増えたことにより仕事に対するモチベーションが向上した。今後の課題としては、①現場が使用しやすいオリジナルマニュアルの改訂と活用、②システム内のケアプランソフトの使用と連動、③デイサービスでのシステムの稼働、④情報の共有化がなされていることを前提として、時間を短縮した朝礼にする⑤PCの文字変換ミスをなくす。

《提案と発信》

記録をシステム化したことで徐々に職員に余裕が出てきたように思われる。記録は非常に大事なことで削ることは難しいが、システム化したことにより少しでも記録時間の短縮を図り、利用者へのケアの時間を増やすことで質の向上に努めて行きたい。

【メモ欄】